けが乗り越えJリーグの主役に

横浜F・マリノス／仲川輝人さん（平27商）

昨シーズンのサッカーJ1横浜F・マリノス優勝の立役者が、FW仲川輝人選手（平27商、27歳）だ。仲川選手はMVPと得点王にも輝いた。プロに入る直前に負った重傷を乗り越えて、Jリーグの主役に躍り出た仲川選手。これまでの道のり、大学時代の思い出を聞いた。

富士ゼロックススーパーカップでの仲川選手＝2月8日、埼玉スタジアム©Y.F.M

――横浜F・マリノスに入って5年目の昨季は最高の年になった。

J1優勝はチーム一丸となって勝ち取ったタイトルだが、個人賞を二つも取れて、うれしさは倍になった。

――プロ入り（2015年）直前に全治8カ月の大けがを負った。完治したが、試合に出られるようになるまで3年以上かかった。

けがが治っても、スピードと動きのキレを取り戻せない。戦術練習に入れず、試合にも出られなかった。そんなドン底にいたから、上を見るしかなかった。

ピッチの隅でボールを黙々と蹴ってトレーニングに励んだ。2年間J2で武者修行もさせてもらった。それらが実を結び、18年から試合に出られるようになり、出場すればするほど成長したと自負している。

昨季の優勝に貢献できたことで、やっと横浜F・マリノスに恩返しができた。私は負けず嫌いで頑固。前向きにポジティブな考え方を大切にしている。

――161㌢と小柄な仲川選手の最大の武器は、スピードと瞬発力を生かした緩急あるドリブルだ。

昨季は、利き足ではない左足でのシュートの決定率が高くなった。手応えを感じており、現在も良い状態が続いている。今季開幕戦では、相手チームのマークがかなり強くなったと感じた。それだけ注目される存在になれたのかと思う。今季の目標はJリーグ連覇。個人では昨季の15ゴールを上回る数字を残したい。

昨年末、日本代表にも初選出され、海外での試合で刺激を受けた。学生時代からの夢であるワールドカップ出場を目指して努力を重ねたい。

大学時代は宝物

――仲川選手がいた11年からの4年間は、専大サッカー部の黄金期。攻撃的で個性あるパスサッカーが花開いた。

関東1部リーグ4連覇を達成したのは宝物の思い出。大学日本一にもなれた。先輩の庄司悦大さん（平24経済、京都サンガFC）をはじめ長澤和輝さん（平26経営、浦和レッズ）らメンバー一丸となって強いチームづくりに励んだ。

そんな中で自分は1年次から試合に出させてもらった。関東リーグの得点王にもなれたし、ユニバーシアード大会にも出場できた。高校時代、専大にスカウトしてくれた源平貴久監督（現総監督）と、日々指導してくれた岩渕弘幹コーチ（当時）には、感謝の気持ちを持っている。

――専大サッカー部には専用グラウンドがなく平日の練習は早朝のみ。どんなことを心掛けたのか。

グラウンドでの練習は、1限の授業が始まる前の1時間半だけ。私は毎朝5時前に起床し川崎市の自宅を出て、7時から練習を始めた。限られた条件の中で、集中力を持って密度の濃い練習を行い、一つ一つの質を高める努力をした。

大学サッカーの結果はいつも気にしている。機会があったら生田キャンパスへ後輩の早朝練習を見に行きたい。

――サッカー以外で専大の思い出は。

思い出すのは、けがの治療中、生田通学路の急坂がきつかったこと。学食の鉄板焼きが好きだった。サッカーに懸けた学生時代だったが、もちろん授業に出て勉強も頑張った。多くのかけがえのない出会いがあり、一緒に机を並べる仲間がいたことは幸せだった。

――後輩にメッセージを。

一つのことに打ち込む中で、常に向上心を持って行動することが大事だ。そういった姿勢は成長につながり、必ず将来に生かされる。

スポチャン剣士　目指すは学生日本一

徳永帆南さん（文4）

スポチャンの剣を持つ徳永さん

空気が入った軟らかい剣を打ち合う競技・スポーツチャンバラ（スポチャン）。徳永帆南さん（文4）はスポチャンの勝負の厳しさを知り、仲間との交流に励まされ、学生日本一の夢に向かい剣をふるっている。

スポチャンは、剣の長さや持ち方などでいくつかの種目に分かれている。相手から一本とったら勝ちと、ルールは至ってシンプルだ。

徳永さんは大学入学後の勧誘で、たまたまスポチャンサークル鳳剣会のチラシを手にし、入部した。当時、鳳剣会は創部2年目。生田キャンパスでは初めての女子部員だった。剣道とフェンシングの経験者だったこともあり、1年次夏の関東学生選手権で4位になった。

冬の全日本学生選手権には夏とは違う「長剣両手」という種目で臨み、決勝に進んだ。相手は他大学の学生で、徳永さんにこの種目を勧めてくれた選手だった。思い切って飛び込んだけれど、勝つことはできなかった。

悔しさをバネに、スポチャンに熱中した。冷静に自分を分析し、地方を含め、さまざまなクラブに出げいこに行った。

「一本勝負なので競技歴とか体格とか関係なく、誰にでも勝つチャンスがあるのがスポチャンの魅力」と言う。2年次では全日本選手権で優勝を果たした。ただ学生の大会では優勝には一歩及ばず、卒業までに学生の頂点に立つことが目標だ。

もう一つの目標は団体戦で1部に昇格すること。現在は2部で、「後輩たちも頑張ってくれている。なんとか1部昇格を果たしたい」。学生最後の年に個人も団体も高みを目指すが「気負いすぎず、後輩にスポチャンを楽しんでいる姿を見せられたら」とほほ笑む。

文学部で日本語学を学んでおり、カナダでの日本語教育実習に参加。スポチャンを披露すると、素早い剣の動きに海外の人も魅了されていた。

「スポチャンに出合って、自分のことを深く知ることができた。できないことを減らして、できることを増やしていき、これからもスポチャンを通じて成長したい」と剣を握る手に力を込めた。

購買会神田店が1号館にオープン

神田キャンパス1号館地下1階に購買会神田キャンパス店が3月1日オープンした。商学部の神田移転と国際コミュニケーション学部開設により増加する学生・教職員へのサービス向上が目的。長年同所で書籍や文房具を販売していた邦光堂の業務を専大センチュリー（購買会）が引き継いだ。

専大公式マスコット「センディ」や、タオル、ポロシャツなどの専大グッズもそろっている。オープン記念として、サークルや部ごとにチームのロゴや背番号などを自由にデザインできる「カスタマイズ応援グッズ」を提案。これまで同様、書籍は定価の10％引きで購入できるほか、自動車学校や専門学校の申し込み、国際学生証の発行も行う。

購買会では「学生の皆さんの要望に応えながら商品を増やしていくので、ぜひ利用してほしい」と話している。

営業時間は前期平日が10～20時、土曜日は10～14時。※授業開始日から営業　問☎03・3262・5759

外国語のススメ　外国語教育研究室

－82－

塙　武郎　経済学部教授

大都市に学ぶ「政策英語」とは？

2020年。アメリカでは4年に1度の大統領選挙を11月に迎えます。現職の共和党トランプ大統領が再選を果たすのか、野党・民主党が政権を奪還するのか。その注目度の高さはまさに世界規模です。

私の専門はアメリカ経済、公共政策の日米比較です。財政学（public finance）という学術領域に身を置き、アメリカにおける政府の役割や実際の政策について実証的に研究しています。特にニューヨーク、ロサンゼルス、シカゴ、デトロイトなど大都市での教育政策や補助金のあり方を、人種、所得、自治、そして格差という視点から研究しており、近年はハーバード大学やコロンビア大学の先生方と共同研究を進めています。また公共交通や地域計画（まちづくり）の実践的な調査研究も並行しています。

NY市の最貧地区サウスブロンクスにあるProject群

さて皆さんは、“Project”という英単語をご存じでしょうか？

通常は「企画・計画」と答えるでしょう。しかしそれだけではアメリカでの現地調査を行うには不十分です。それは、NY市などが建設・運営する「低所得者向け公営住宅」という住宅政策（貧困対策）の意味を有するのです。

語学で大切なことはリアリティー（現実感覚）です。“Project”はまさに目に見えるリアルな「政策英語」と言えます。現実に照らして英語を学ぶことで、経済学の勉強も楽しくなります。ぜひリアルな英語に出会ってください。（アメリカの経済）

短縮版。全文はCALL教室ホームページで。